



おくもと 哲也 議員

部落問題

一層の啓発活動を あらゆる手法で展開する

また、保護者に対しての啓発活動の状況は。

答 宮川教育長

年間計画の標準授業時数等を踏まえ、地域や学校の実態に応じて教育課程を編成している。内容と時間数等が決められており、年間を通して人権対策に特化した授業はない。

個人の価値の尊重、正義と責任、男女の平等等、自他の敬愛と協力など、人権に関する内容について、人格の完成を目指すものだ。相手のことを思いやる心、差別や偏見を持つことなく基本的人権の尊重を小中高のそれぞれの発達段階に応じた学習を展開させている。

P T A 人権問題研修会を実施し、保護者、児童生徒、教職員、地域住民に呼びかけ行っている。保護者の参加はこの3年間増加傾向にあり、本年度は9校が計画し、2月から9月にかけて実施する予定。



商工会横に設置の看板

問 最近、町内で部落差別発言が発生した。特に地域などへの、出前講座など行うべきでないか。そして、企業への研修状況はどうなっているか。

答 岡本教育次長

今現在でも差別に苦しんでいる方がいる。これからの啓発、教育を進めるうえであらゆる手法等検討が必要だ。

人権出前講座を実施しているが、今後も地域に入って対象者を絞っての実施など、人権課題に取り組んで行く。

問 人権係が2名体制で行われているが、これからの人権行政を十分にやって行けるか。

答 宮川教育長

人権教育は地域社会や学校教育に広く浸透しており、一定の成果が得られているとの判断のもと、基本改革により今年度から正職員2名体制でスタートした。啓発と教育を一本化し、効果的に推進できると判断した。

将来的には、生涯学習の中に位置付け、他の人権関係部署と連携し、広く深く、効果的な啓発教育につなげていく。

通学路対策

危険箇所 早急に改善を

具体的な方法 協議を進める

問 特に雨の日の場合、歩いて登校している児童生徒は少ない。校門の前など危険箇所があり対策が必要と思うが、取り組みについて問う。

特に入野小学校校門が危険だが、対策はないか。

答 岡本教育次長

特に雨の場合は、保護者が車で送迎することが多い。児童生徒の安全対策が必要な状況が生じている。保護者には、送迎車の駐車場所や送迎ルールを明確にし、総会、口頭説明、文書により周知している。

入野小学校の校門前の安全確保についてはスクールガードリーダーやサポートセンターの職員も登校時に交通安全対策を行っている。



危険が多い入野小学校校門前（令和6年12月）

問 学校教育の中で、期間を決め学習しているようだが、一年間を通して同和学習・人権学習はできないか。